

## 第 28 回日本環境動物昆虫学会 (2016 年 11 月 13 日、信州大学)

### 京都府におけるニホンミツバチへのアカリダニ寄生

○坂本文夫 (京都ニホンミツバチ研究所、京都学園大学)、細見一樹、伊藤愛  
(京都学園大学・バイオ環境学部)、河合秀二郎 (京都市在住養蜂家)

#### 【はじめに】

5,6 年前から在来種のニホンミツバチ *Apis cerana japonica* Rad. に異変が生じ、多くの働き蜂が飛ぶことができず巣の周りをはい回る姿が各地で観察された。そして、主に冬期に消滅するコロニーが続出し、深刻な問題として認識されるようになった。2013 年から組織的な調査が行われ、アカリダニ *Acarapis woodi* (Rennie) の寄生がその主要原因であることが確認された。日本で最初の寄生報告は 2010 年の長野県の事例であるが、現在ではニホンミツバチが生息している本州、四国、九州のほぼ全地域に寄生が拡大している。

私達は京都府下の幾つかの地域に飼育されているコロニーについてアカリダニの寄生の有無を検査している。今回、経時的に寄生率を調べる中で、寄生を克服したコロニーを見出したので報告する。

#### 【実験方法】

巣箱の中や巣門を出入りする働きバチを蓋付き容器に捕獲して冷凍庫に保存し、検査当日に解凍して解剖検鏡検査に供した。ニホンミツバチの頭部をピンセットで引き抜き、胸部側にある 1 対の気管だけを他の組織からできるだけ分離して採取した。採取した気管をスライドグラスに乗せて光学顕微鏡 (40-200 倍) で観察し、適宜画像を撮影・保存した。できるだけ各コロニー 15 頭程度の検査を行い、アカリダニの虫体・卵を観察した場合を寄生例としてそのコロニーの寄生率を算出した。

#### 【結果・考察】

一旦ダニに寄生されるとそのコロニーの寄生率は経時的に高くなって行き、特に冬場に向かう季節であれば最終的に 100% 寄生となり消滅した。しかし、本年になって寄生コロニーから健全なコロニーが分蜂したり、寄生を克服したコロニーが発見されたりして、未寄生のコロニーが徐々に増加していることが分かってきた。京都府下の検査実施地域では、ほぼ全滅の時期を経て、寄生のないコロニーが定着し始めたと考えられる。

